

さすらい (1957)

IL GRIDO

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 イタリア／アメリカ
色彩 B&W
時間 102分
初公開日 1959/04/12
公開情報 新外映＝イタリ

【解説】
アントニオーニが日本に初めて紹介された作品だが、監督としては第6作目にあたる。例の虚無的ムードはもうバッチリ全開であるものの、まだどこかネオリアリズム的なウェットさが残っていて、その後の諸作よりか幾分親しみが持てる内容となっている。北イタリア、ポー河流域の精糖工場で働くアルド（コ克蘭）は、夫が豪州に行ったきりのイルマ（ヴァリ）と同棲し、六歳になる娘まで儲けていた。その夫が死んだとの通知があり、いよいよ結婚できると勇むアルドに、イルマは、もう愛は消えたと冷たく言い放つ。彼と娘はあてのない旅に出るが、どこへ行っても満たされぬ想いを抱いて、結局、元いた町に舞い戻ってきてしまう……。内縁の妻に捨てられた男の放浪と悲劇的結末（そこにアイロニーやペーソスは存在しない）は、現在の観客が見てもなおショッキングなはずだ。

【クレジット】			
監督	ミケランジェロ・アントニオーニ	Michelangelo Antonioni	
製作	フランコ・カンチェリエーリ	Franco Cancellieri	
製作総指揮	ラルフ・ピント	Ralph Pinto	
脚本	エンニオ・デ・コンチーニ	Ennio de Concini	
	エリオ・バルトリニ	Elio Bartolini	
	ミケランジェロ・アントニオーニ	Michelangelo Antonioni	
撮影	ジャンニ・ディ・ヴェナンツォ	Gianni Di Venanzo	
編集	エラルド・ダ・ローマ	Eraldo Da Roma	
音楽	ジョヴァンニ・フスコ	Giovanni Fusco	
出演	スティーヴ・コ克蘭	Steve Cochran	アルド
	アリダ・ヴァリ	Alida Valli	イルマ
	ドリアン・グレイ	Dorian Gray	ヴィルジニア
	ベッツィ・ブレア	Betsy Blair	エルヴィア
	リン・ショウ	Lynn Shaw	アンドレイナ
	ガブリエラ・パロッティ	Gabriella Pallotti	エデラ